

## 第7回「こんにちは！市長です（個人参加型）」開催概要

開催日：令和6年10月19日（土曜日）10時00分から11時45分

開催場所：三田市総合福祉保健センター 第1・2会議室

参加者：2名（未就学児2名の保護者、未就学児1名・小学生1名の保護者）

### 【子育て支援策について】

- ・子育てしている中で負担が大きいので、「子育て支援をされている」という実感がほしい。給付金も有難いが、一番手のかかる0歳・1歳へのおむつの定期的な提供など、生活の中で市からも見守られている実感がわくような支援があれば嬉しい。
- ・三田は「アウトレットがあるところ」と言われることが多いがそれが寂しい。三田には沢山良いところがある。優先順位のこともあると思うが、市外の人が三田と言えば「〇〇に特化している」とか、「子育て支援にアツイまち」と言ってもらえるような、特色があるまちになってほしい。3年前に三田へ引っ越してきたが、自然が多くて住みやすい。

### 【子どもの遊び場について】

- ・子どもの遊び場として、外で遊ぶ公園はたくさんあるが、子どもが自由にのびのび遊べる室内の遊び場が欲しい。三田市民は少しでも利用料の割引があると嬉しい。
- ・子どもが色々なことにチャレンジできるようなまちになってほしい。そのための遊べる施設も必要かと思う。

（例えば）

→ふれあいプールを使った子どもが楽しめるイベントがあればいいと思う。

→フローラ88の屋上駐車場で自転車BMXのイベントをしていたりする。また、スケートボードが流行っているが、できる場所が少ないことや、あまり安全でないところで遊んでいる。神戸市の北神戸田園スポーツ公園では安全にスケートボードができるような環境がある。色々なスポーツがあるので、親和学園駒ヶ谷公園で子どもがやりたいような種目ができるような施設を作ってはどうか。

### 【中学校の部活の地域移行について】

- ・最近、部活動が地域移行になることを聞いた。地域移行になれば今までより費用がかかることになり、場合によってはクラブ活動ができない子も出てくるのではないかと、子どもたちの機会を奪ってしまうことになるのではないかと心配している。メリットよりもデメリットの方が上回っている気がしている。
- ・地域移行の背景も理解できる。先生が大変で、部活の顧問は悩んでいる。先生は帰宅するもの遅く、先生の負担が大きい。先生が奉仕している状態。先生は専門性がない場合もあり、民間で教えた方が、専門性がある。デメリットの方が多く見えるが、いい仕組みが出来上がっていれば、メリットを多く感じることもできるかもしれない。また、先生の部活の負担がなくなることで、学校教育が充実する可能性もあると思う。そうなれば、子どもたちにとっていいことになると思う。
- ・部活の種類を幅広く捉えてはどうか。発想はいろんなものがあれば良い。

（例えば）

→競技人口が少ないスポーツなら指導できる人がいれば、世界大会等でメダリストが出るということも期待できる。子どもが大成できる地盤があれば、それは市の魅力になると思う。

→自身はバーベキューに関する資格を持っている。野外活動センターを活用した「キャンプクラブ」や「登山部」を作ってはどうか。平日は、ロープワークなど子どもたちだけで自主活動ができ、休日に実技活動ができる。

→自身は市外から転入してきたが、三田は、アウトドアをしている人からすると、サイクリングとか釣りとか、とても有名な地である。そういった地域の特色がある部活を設けることで、「人が出ていくよりも人が入ってくる市」になる可能性もあるのではと思う。

→有馬高校の「人と自然科」は、農業分野の全国的な大会に出るなど、とてもレベルが高い。もし地域移行で「農業クラブ」ができ、そこで基礎を学んでいけば、高校の部活動のレベルがさらに上がりより良い結果が出ると思う。

### 【三世代同居手当について】

- ・子どもに焦点を当てている施策は多いが高齢者に目を向けても良いと思っている。自身は介護施設で働いているが、独りぼっちの高齢者が多いように思う。自宅に送り届けた時、さみしそうな顔をしている。子や孫や家族が家にいれば生活に張りが出ると思う。自分たちも子どもの面倒を見てもらえるので助かる。例えば、おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に住むと手当が出るなどの「同居手当」的なものを支給するといった施策はできないか。おじいちゃん・おばあちゃんが息子や娘のところに行くとなれば、三田の空き家が増えると思うが、そうではなくて息子や娘たちが三田市に戻ってくると、空き家になることもなくなり、生活費のコストも下がるし、祖父母が孫を見ると元気になるなど、三世代で住めば幸せになれるのでは、と思う。高齢者にやさしいということも市の売りになると思う。

### 【タウンミーティングについて】

- ・市長が色々考えていることを、こうやって直に聞けて、とても嬉しく思う。

### 【主な意見を受けて（市長から）】

- ・おむつの定期的な配布は、明石市と加西市などが実施している。物資をただ渡すだけではなく、訪問して顔を見て渡し、様子を伺い、支援が必要であれば支援に繋げることが目的である。私は5つの無償化を公約に掲げており、予算的に今後実施できるかどうかも検討したうえで、議会の議決を得ることができれば、7年度は医療費の無償化と、中学生の給食費無償化をしたいと考えている。こういった無償化によって、「こどもを核としたまちづくり」のメッセージを送りたいと考えている。今後の人口推計では、0～5歳が減っており、0歳児が極端に減少している。0歳児への支援としておむつの提供が支援として一番適しているのでは、とも思うが、ただ、予算に限りもあり、たくさんの無償化をすることは難しい。今後考えていきたいと考えている。
- ・室内の遊び場は、湊川短期大学の中に「みな・とっちひろば」がある。公園はたくさんあるけど、使いにくい公園も多いとも聞いている。どうやったら子どもたちが喜んでくれるか、どうやったら保護者が安心してくれるか、考えている。市では公民連携を推進しており、民間の力を借りて、こういった遊び場を充実させていきたい。
- ・育った子どもたちが出ていって、戻ってこない。転入してくるところがない。一朝一夕ではできないが、若い世代が入ってこられるような、住宅が循環する仕組みづくりが大切だと考えている。
- ・「三田陶芸の森」には、岡本太郎氏の作品があるなど、知られていない観光資源などがたくさんある。三田の良さをどうやったら広めていくことができるのか、整理していきたい。

- ・三世代同居は、三田にあてはまる可能性があると思う。
- ・世の中の政治や経済の仕組み、お金のことも、子どもに分かりやすく教えることが大切で、そのことにより、夢の可能性が広がり、子どもの進路の選択肢が広がる。三田市の子どもたちへ、教育で教えていく必要があると思う。

いただいたご意見・ご提案は今後の市政運営の参考にさせていただきます。